

横市地区遺跡群

加治屋B遺跡(第2次調査)・星原遺跡

—横市地区県営ほ場整備事業に伴う遺跡の発掘調査概要報告書—



加治屋B遺跡中世館跡全景（北西上空から）

2003年10月

宮崎県都城市教育委員会

横市地区遺跡群

加治屋B遺跡(第2次調査)・星原遺跡

—横市地区県営ほ場整備事業に伴う遺跡の発掘調査概要報告書—

2003年10月

宮崎県都城市教育委員会

序 文

本書は、「横市地区県営は場整備事業」に伴い、受託事業として都城市教育委員会が発掘調査を実施した横市地区遺跡群の概要報告書であります。

都城市では横市地区県営は場整備事業に先立つ埋蔵文化財の発掘調査が平成8年度から継続的に実施されており、国内最古級の水田跡が検出された坂元A遺跡や、鎌倉時代の大規模な館跡が見つかった加治屋B遺跡など、これまで数多くの成果が報告されています。

平成14年度は、平成13年度に引き続き加治屋B遺跡の調査が行われ、中世館跡の全貌が見えてきました。また、星原遺跡では古代の扇跡や道路跡などが検出されました。

本書の刊行によって、都市の文化財に対する理解と認識が高まることうともに、今後の学術研究の発展に少しでも寄与できれば幸いです。

また、発掘調査に従事していただいた市民の皆様や周辺住民の皆様をはじめ、関係各機関の方々には多大なご理解とご協力をいただきました。心から感謝の意を表します。

2003年10月30日

都城市教育委員会

教育長 北 村 秀 秋

例　　言

1. 本書は、「横市地区県営は場整備事業」に伴い都城市教育委員会が平成14年度に実施した横市地区遺跡群の発掘調査概要報告書である。
2. 調査を実施したのは、加治屋B遺跡（第2次調査）と星原遺跡である。
3. 現場における遺構実測は、作業員の協力を得て加治屋B遺跡を桑畑・下田代・原田・津曲が、星原遺跡を栗山・津曲が行い、市文化課の矢部喜多夫・久松亮の協力を得た。
なお、遺構実測図及び遺物出土分布図の一部を有限会社ジバンング・サーベイに委託した。
4. 遺構の写真撮影は加治屋B遺跡を桑畑・下田代・原田が、星原遺跡を栗山・津曲が行った。また、遺構の空中写真撮影は九州航空株式会社に委託した。
5. 本書ではレベルは絶対高を用い、また、座標は旧国土地標を用いた。
6. 本書の執筆は2章を津曲、3章を桑畑、1章と4章を栗山が担当した。
7. 本書で使用した遺構の略号は以下のとおりである。
S A : 積穴住居跡 S B : 挖立住建物跡 S C : 土坑 S D : 溝状遺構 S E : 井戸跡 S F : 道路跡
S R : 埋納遺構 S S : 集石遺構
また、加治屋B遺跡では縄文時代にJ、弥生時代にY、が頭文字に付けられている。
8. 発掘調査で出土した遺物とすべての記録(図面・写真など)は都城市教育委員会で保管している。

本文目次

第1章 序 説	1) 調査の経緯と経過	1
	2) 調査組織	1
第2章 遺跡の位置と環境		2
第3章 加治屋B遺跡		3
第4章 星原遺跡		8

挿図目次

第1図 遺跡分布図	2
第2図 加治屋B遺跡 調査区域全体図	3
第3図 加治屋B遺跡 弥生時代遺構分布図	4
第4図 加治屋B遺跡 2次調査 古代～中世遺構全体図	5
第5図 星原遺跡 調査区域全体図	9・10

写真目次

1. 加治屋B遺跡 1次調査弥生時代遺構全景	4
2. 加治屋B遺跡 2次調査北区弥生時代遺構全景	4
3. F-17区16層 繩文時代早期窓出土状況	6
4. F-16区 繩文時代早期集石遺構 (JSS8)	6
5. C-16区 繩文時代落とし穴 (JSC5) 断ちわり状況	6
6. K-10・11区 弥生時代竪穴住居跡 (YSA45)	6
7. K-8区 弥生時代竪穴住居跡 (YSA42)	6
8. Q-15区 弥生時代竪穴住居跡 (YSA41)	6
9. F-15区 古代道路遺構 (SF7)	6
10. 古代掘立柱建物群 (左からSB97、SB104、SB98)	6
11. H-17区 古代土器環埋納状況 (SR1)	7
12. G-15区 古代竪穴状遺構 (SA8)	7
13. K-15区 古代竪穴状遺構 (SA4)	7
14. J-15・16区 古代竪穴状遺構 (SA6)	7
15. J-13区 中世溝状遺構 (右がSD1、左がSD2)	7
16. J-13区付近 中世溝状遺構 (SD1) 断面	7
17. 中世掘立柱建物跡群 (左からSB90・89・85・86・87・88・83・84)	7
18. J-11区 中世溝状遺構 (SD2) 出土青磁	7
19. J-9区 中世土坑 (SC246) 出土銅製華瓶	7
20. 繩文時代前～中期 調査区全域	11
21. 繩文時代前～中期 遺物出土状況	11

22. 6号集石・7号集積検出状況	11
23. 8号集石検出状況	11
24. 古墳時代遺構全景	12
25. S A05完掘状況	12
26. S A06出土 壺	12
27. S A05出土 壺	12
28. S A05出土 壺	12
29. S A05出土 高環	12
30. 弥生時代中期 脚台付特殊壺	12
31. 弥生時代後期 埋設壺	12
32. 古代 須恵器	12
33. 繩文時代晩期 浅鉢	12
34. 古代遺構全景	13
35. 古代墓跡(調査区北東)	13
36. 敷間完掘状況	13
37. 墓跡 断面	13
38. 古代古道検出状況	13
39. 古代古道断面1(H-12区付近)	13
40. 古代古道断面2(H-11区付近)	13
41. 古代土師器壺 出土状況	14
42. 鉄製品出土状況	14
43. 鉄製品(刀子)	14
44. 鉄製品(帶金具)	14
45. S B15(北西より)	14
46. S B01(北西より)	14
47. S B06(中央)、S B10(手前)、S B11(奥)	14
48. Pit半裁(S B01)	14

第1章 序 説

第1節 調査の経緯と経過

宮崎県都城市横市地区では、平成5年度に県営は場整備事業(平成9年度から平成13年度まで県営担い手育成基盤整備事業)の実施が採択されました。平成6年度宮崎県北諸県農林振興局から文化財の所在の有無について照会を受けた宮崎県文化課が一帯の分布調査を実施したところ、事業対象区域170ヘクタール内において10遺跡、約44ヘクタールに及ぶ埋蔵文化財包蔵地の所在が推定されました。その後、都城市教育委員会は宮崎県文化課が実施した試掘調査の結果を受けて、北諸県農林振興局と協議を行い、平成8年度から記録保存のため、緊急の発掘調査を実施している。なお、平成14年度までに発掘調査を行った遺跡は以下の一覧のとおりである。

遺跡名	所在地	調査面積	調査年度	主な時代と成果
鶴喰遺跡	都城市横市町	8,100m ²	平成8・9年度	古墳時代の集落跡・中世の館と水田跡
駄穴遺跡	都城市横市町	15,000m ²	平成10年度	縄文時代～近世の集落跡と水田跡
今房遺跡	都城市横市町	3,110m ²	平成11年度	弥生時代の集落跡・中世の水田跡
馬渡遺跡	都城市豪原町	9,900m ²	平成11・12年度	弥生時代の集落跡・平安時代の居宅跡
坂元A遺跡	都城市南横市町	2,800m ²	平成12年度	縄文時代～近世の水田跡
坂元B遺跡	都城市南横市町	6,300m ²	平成12年度	縄文時代～近世の集落跡・中世の館跡
江内谷遺跡	都城市豪原町	3,100m ²	平成12年度	平安時代の集落跡・水田跡
加治屋B遺跡 (第1次調査)	都城市南横市町	11,000m ²	平成13年度	弥生時代の集落跡・中世の館跡
加治屋B遺跡 (第2次調査)	都城市南横市町	10,000m ²	平成14年度	弥生時代・平安時代の集落跡・中世の館跡
星原遺跡	都城市南横市町	6,500m ²	平成14年度	古墳時代・平安時代の集落跡・古代墓跡

平成14年度の調査対象となったのは、加治屋B遺跡(2次調査)と星原遺跡である。加治屋B遺跡(2次調査)は、調査範囲のはば全域が切土によって削平されるため、前年度に引き続き、1次調査区の東側隣接地約10,000m²について調査を実施することとなった。調査期間は平成14年4月10日～平成15年度1月24日までである。星原遺跡は平成13年度に宮崎県教育委員会文化課による確認調査によって遺物包含層のひろがりが把握されたため、工事計画と照らし合わせた結果、切土により削平を受ける約6,500m²について調査を実施することとなった。調査期間は平成14年5月20日から平成15年3月31日までである。調査期間中、小学生を対象とした遺跡見学会を実施し、約270名の参加があった。

第2節 調査組織

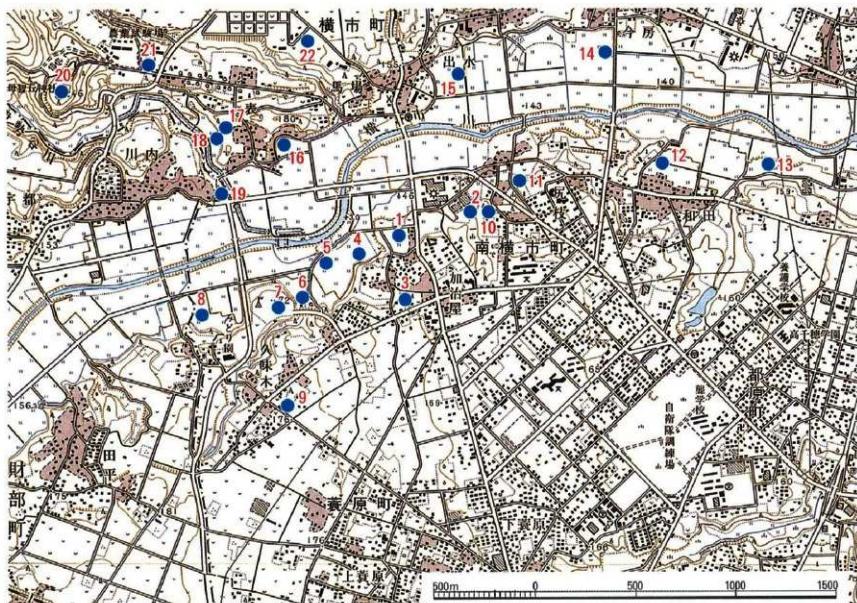
- ・調査主体者 宮崎県都城市教育委員会
- ・調査責任者 教育長 長友 久男(平成14年6月30日まで)
北村 秀秋(平成14年7月1日より)
- ・調査事務局 文化課長 井尻 賢治
文化課長補佐 坂元 昭夫
文化財係長 松下 述之
- ・調査担当者 文化課文化財係主査 桑畠 光博
文化課文化財係主事補 萩山 葉子
文化課文化財係嘱託 下田代 清海・原田 亜紀子・津曲 千賀子
- ・調査指導者 宇田津徹郎(宮崎大学)、宍戸 章(宍戸地質研究所)、田崎博之(愛媛大学)、
本田道輝(鹿児島大学)、柳沢一男(宮崎大学)、山本信夫(山本考古学研究所)
井上 弦(宮崎大学)
石川悦雄・飯田博之・松林義樹(宮崎県教育委員会文化課)

第2章 遺跡の位置と環境

都城市は九州の東南部、宮崎県の南西部に位置しており、都城盆地のほぼ中央部を占める。この盆地は北東を諸県丘陵、東から南を鰐塚山・柳岳を主峰とする鰐塚山地に、北西を霧島火山群、西を瓶台山や白鹿山などに囲まれ、地溝状の凹地となっている。東側の山地は急峻で起伏に富み、山地から流下する河川によりその麓は開拓され、扇状地を形成している。西側の山地は盆地底にかけて緩やかに傾斜する。また、盆地の中央部を多くの支流を集めながら大淀川が北流している。その支流の一つである横市川は、霧島山麓を源とし、鹿児島県財部町を経て蛇行しながら都城盆地中央部へ向けて流下し、大淀川に合流する。横市川流域には河岸段丘と氾濫原が形成されており、現況は水田が広がる。この横市川両岸には、横市地区遺跡群と総称される遺跡が点在しており、当遺跡もこの遺跡群の中に含まれる。

加治屋B遺跡(第2次調査)は宮崎県南横市町字加治屋に所在する。横市川右岸の成層シラス(二次シラス)台地である蓑原台地北端から、東流する横市川へと傾斜する低位段丘面上(標高152m)に立地し、前年度行われた第1次調査区の東隣に位置する。

星原遺跡は、宮崎県都城市南横市町字尻枝に所在する。横市川右岸に位置しており、加治屋B遺跡の200mほど東側、同遺跡と同じ低位段丘面上に立地する。遺跡の標高は海拔約150~152mで、横市川との比高差は約8mほどである。



- 1 : 加治屋B 2 : 星原 3 : 加治屋A 4 : 坂元B 5 : 坂元A 6 : 江内谷
7 : 中尾山馬渡 8 : 馬渡 9 : 池原 10 : 田谷・尻枝 11 : 胡摩段 12 : 平田
13 : 早馬 14 : 今房 15 : 脇穴 16 : 鶴喰 17 : 新宮城跡 18 : 畑田
19 : 母智丘谷 20 : 母智丘原第1 21 : 母智丘原第2 22 : 牧の原第2

図1 遺跡分布図

第3章 加治屋B遺跡の第2次調査

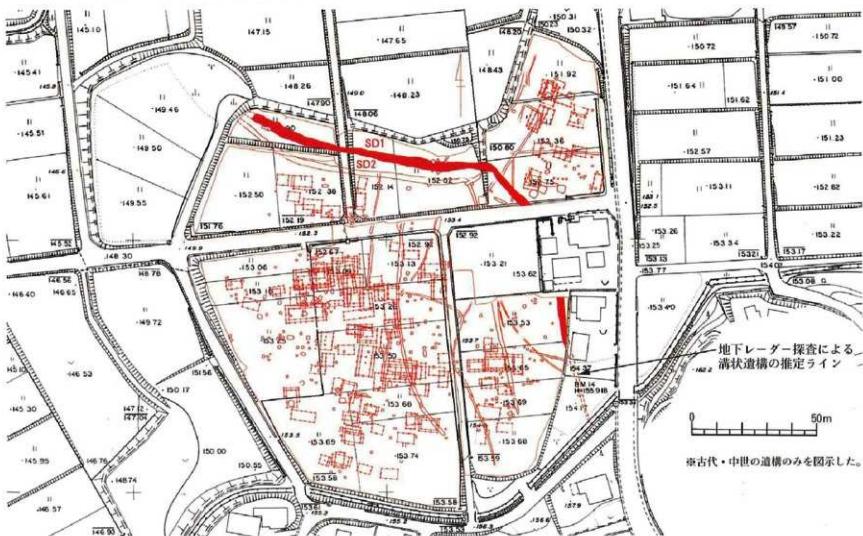
加治屋B遺跡の第2次調査は、昨年度(平成13年度)調査した第1次調査区域の東側隣接地(約10,000m²)において実施した。調査期間は、平成14年4月10日～平成15年1月24日までである。

縄文時代に関しては、調査区の北東部において鬼界アカホヤ火山灰よりも下位に堆積する桜島末吉輕石の下から、早期の集石造構が19基見つかった。包含層から円筒形土器や押型文土器などが出土している。また、同区の斜面上において鬼界アカホヤ火山灰の上から掘り込まれた落し穴を1基検出した。底面には径4～5cmの杭ピット8個が認められた。霧島御池軽石層の上層では、後期の土坑が1基検出された。

弥生時代に関しては、弥生時代中期の竪穴住居跡3軒と後期の竪穴住居跡2軒が見つかり、昨年度調査した集落跡の広がりが把握できるという点で貴重な成果が得られた。

平安時代に関しては、9世紀後半から10世紀前半を中心とする掘立柱建物跡14棟、竪穴状造構5基、道路跡などが見つかり、多量の土師器とともに京都産の綠釉陶器や中国の越州窯系青磁が出土した。また、注目される遺物として黒色を呈する石製鉢帶の巡方が1点出土している。

中世に関しては、昨年度検出した鎌倉時代の在地領主館跡の北面をめぐる溝状造構がシラス台地(南)側に向かって曲がることがわかり、館の東限を確認することができた。結果、その規模は南北約140m、東西約140mにおよぶことが明らかとなった。内部の構造として、13世紀～14世紀初頭の掘立柱建物跡15棟、竪穴状造構1基、土坑多数(墓を含む)、溝状造構数条が見つかった。また、貿易陶器は龍泉窯系青磁を中心とし、白磁皿も出土している。国内産陶器は東播系須恵器、常滑焼、瀬戸焼などがある。常滑焼は13世紀後半～14世紀前半のものであり、その器種には甕・壺・鉢などがみられる。





1. 加治屋B遺跡 1次調査 弥生時代遺構全景



2. 加治屋B遺跡 2次調査 北区 弥生時代遺構全景

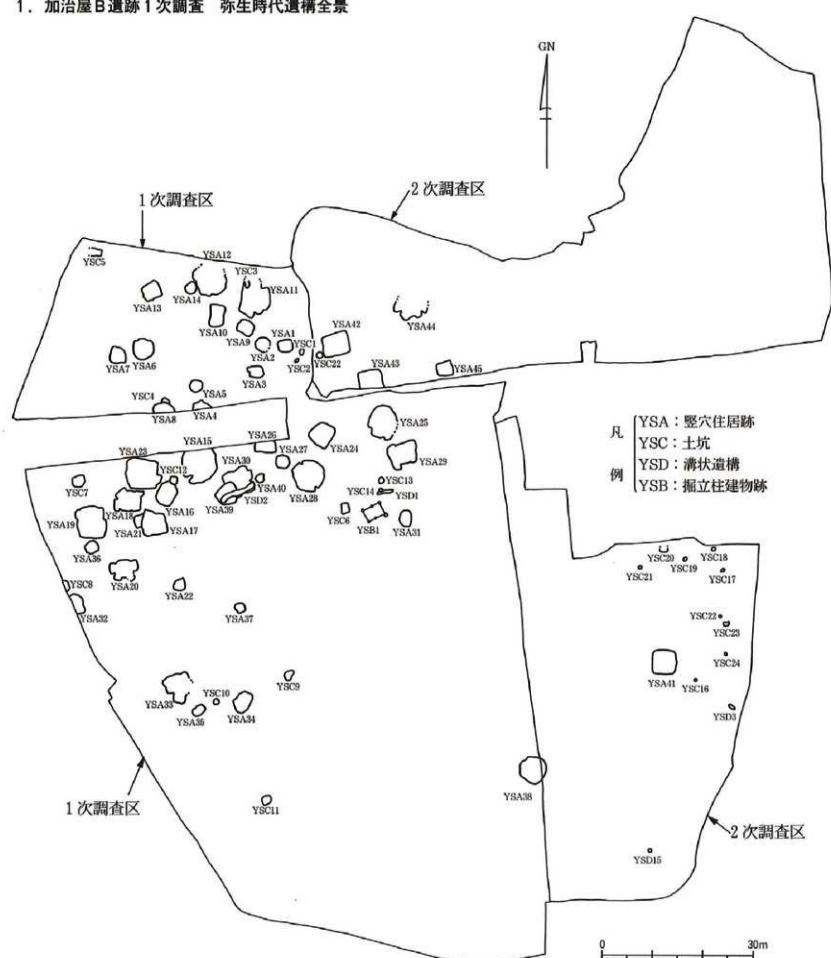


図3 加治屋B遺跡 弥生時代遺構分布図

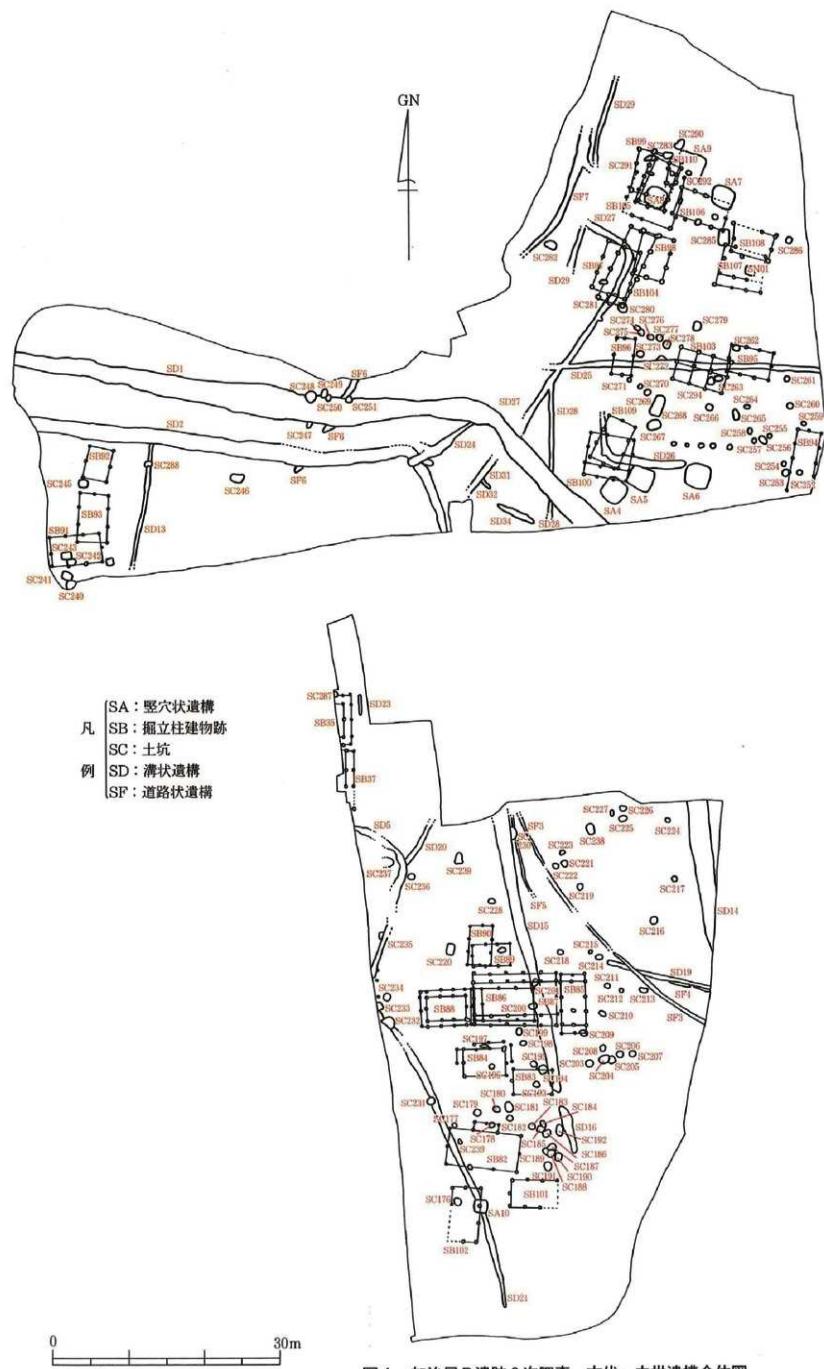


図4 加治屋B遺跡2次調査 古代～中世造構全体図



3. F-17区16層 繩文時代早期礫出土状況



4. F-16区 繩文時代早期集石遺構(JSS8)



5. C-16区 繩文時代落とし穴(JSC5) 断ちわり状況



6. K-10・11区 弥生時代竪穴住居跡(YSA45)



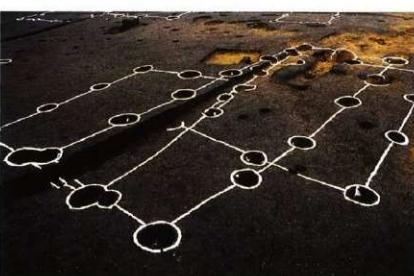
7. K-8区 弥生時代竪穴住居跡(YSA42)



8. Q-15区 弥生時代竪穴住居跡(YSA41)



9. F-15区 古代道路遺構(SF7)



10. 古代掘立柱建物群(左からSB97、SB104、SB98)



11. H-17区 古代土師器坏埋納状況(SR1)



12. G-15区 古代堅穴状遺構(SA8)



13. K-15区 古代堅穴状遺構(SA4)



14. J-15・16区 古代堅穴状遺構(SA6)



15. J-13区 中世溝状遺構(右がSD1、左がSD2)



16. J-13区付近 中世溝状遺構(SD1)断面



17. 中世掘立柱建物跡群
(左からSB90・89・85・86・87・88・83・84)



18. J-11区
中世溝状遺構(SD2)
出土青磁



19. J-9区
中世土坑(SC246)
出土銅製華瓶

第4章 星原遺跡の調査

星原遺跡は、加治屋B遺跡と同じ段丘上の約500m東側に位置する。調査面積は約6500m²で、調査期間は平成14年5月20日から平成15年3月31日までである。

星原遺跡では表土直下に中・近世包含層が、その下に文明軽石(文明軽石が埋没した層)、古代包含層、古墳～縄文後期包含層、御池軽石層、縄文中期包含層、アカホヤ火山灰層という堆積が認められた。

しかし、遺跡は調査区の西から東にかけて広がる開析谷となっており、調査区西側は、御池軽石層直上まで現代の耕作によって削平を受け、中・近世の包含層については調査区東端の一部分にのみ認められ、調査区の大半が古代包含層の上面あるいは中ほどまで現代の耕作によって削平されていることがわかった。

そこで、文明軽石埋没の層と思われるものについては、平面では抑える事が困難であったため、断面図と写真にて記録を行い、古代以前の包含層を中心に調査を行った。

縄文時代前～中期

縄文時代中期は調査区南西部約1,800m²の範囲を対象とした。

御池軽石層直下より深浦式土器や春日式土器が出土し、集石遺構が大小合わせて13基検出された。土器の集中は細い尾根上の地形に沿って多く見られ、土器集中部縁辺に集石遺構が多く検出された。

集石遺構は親指大ほどの小さな躰・礫片からなる小型のものと、拳大の躰からなる大型のものが見られた。大半の集石遺構では、掘り込み等確認できなかったが、大型のもののうち3基については、浅く円形に掘り込んだ場所にぎっしりと礫が詰まっており、炭化物も見られた。

縄文時代後・晚期

縄文時代後期・晚期については、埋設土器と思われる浅鉢が1点、Q-8区で検出された(写真33)。その他、調査区西側を中心に、土器や石器が多数出土している。

弥生時代

弥生時代については、後期の埋設遺構が1基(写真31)、I-11区で検出された。浅い掘り込みに完形の壺が横たわった状態で出土し、上半部のみ風化が激しいことから、長期にわたり、そのままの状態でさらされていたと考えられる。また、包含層中からであるが、中期の脚台付特殊壺をはじめ、中期・後期の土器が多量に出土している。

古墳時代

古墳時代の遺構は竪穴式住居跡が4軒検出された。平面はすべて方形で、直径が大きいもので8m、小さいもので4mであった。各住居跡からは甕・高环・罐などが出土しており、それぞれ時期差がみられる。

SA08では、最初の使用から半分程埋まった段階で、再度ほぼ同じ規模の竪穴式住居として利用していくと思われ、断面に2枚の床面が認められた。

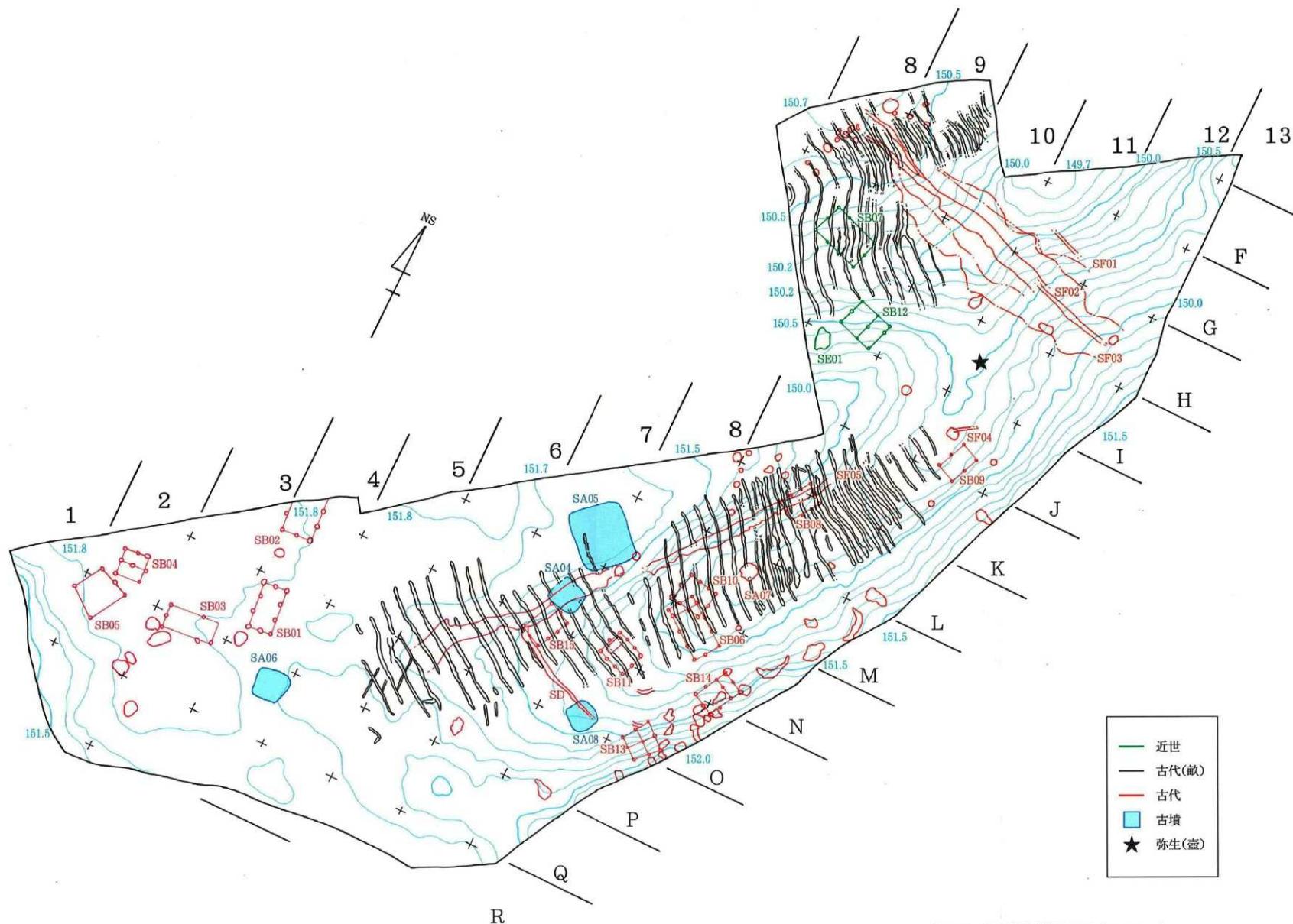
また、竪穴式住居跡は御池軽石層を掘り込んでいるため、掘り込みの際の掘削痕や壁帶溝が確認されるものもあった。

古代

古代の遺構は掘立柱建物跡、溝状遺構、道路跡、塙跡、土坑などが検出された。

掘立柱建物跡は13棟確認され、主体となる平面プランは2間×3間のもので、8棟(うち1棟は北西部に庇を1面もつ。)を確認した。他に、2間×2間が4棟、2間×1間が1棟である。これらは同時期ではなく、最低でも2時期に分かれると考えられる。

道路跡は、調査区北部で東西方向に延びる道路と調査区中央部で南北に延びる道路が検出された。南北に延びるSF05については、塙跡やSB08・15より後に造られている。



第5図 星原遺跡遺構配置図 (S = 1/500)

東西方向に延びる道路は、おむね 3 段階(古段階・中段階・新段階)に区分でき、ほぼ同じ線上で検出された。古段階の道路(硬化面)は畠跡の畝状構造に壊されており、その後、ふたたび中段階の道路が構築されたようである。また、中段階と新段階の道路については、硬化面とその両側(広いところで幅 2~3 m)において御池軽石粒が濃集した状況を確認できた。

畠跡については削平を受けていた西端を除く、調査区のほぼ全域に認められた。古代包含層である黒色土からその下の褐色土に掘られていたため、畠の畝間を検出することができた。

北側の畝間については、地形に沿って波を打つようにカーブしていた。また、中央の畝間については、十数本程度の単位でいくつかのまとまりに分かれるようで、まとまりの間に境のような短い溝状のものも見られた。

土坑については、大小 100 基程検出されたが、大型のものについては片側が深く掘られているものが多く、中には斜めに深く掘り込まれているものも見られるため、根茎類を採掘した痕跡と思われる。

古代の包含層からは、掘立柱建物跡に伴うと考えられる須恵器や土師器が多数出土し、中には墨書き器や綠釉陶器なども見受けられた。また、刀子などの鉄製品も多く、鉄滓なども出土している。

近世

包含層は認められなかったものの、近世と思われる井戸跡 1 基と掘立柱建物跡 2 棟が、調査区北側で検出された。井戸からは唐津焼などの近世陶磁器や五輪塔などが出土している。



20. 繩文時代前～中期 調査区全域(白の囲いが集石)



21. 繩文時代前～中期 遺物出土状況



22. 6号(手前)、7号(奥)集石検出状況



23. 8号集石検出状況



24. 古墳時代遺構全景



25. SA05完掘状況



26. SA06出土 壺



27. SA05出土 壺



28. SA05出土 壺



29. SA05出土 高壺



30. 弥生時代中期 脚付特殊壺



31. 弥生時代後期 埋設壺



32. 古代 須恵器



33. 縄文時代晚期 浅鉢



34. 古代遺構全景



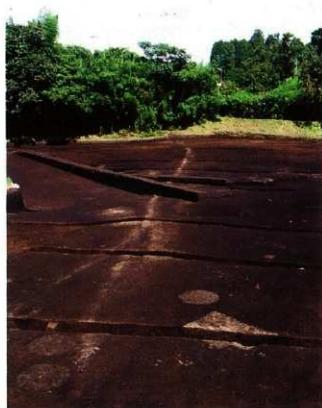
35. 古代畠跡(調査区北東)



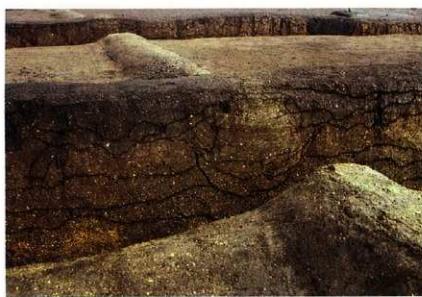
36. 突間完掘状況



37. 畠跡 断面



38. 古代古道検出状況(北より)



39. 古代古道断面 1 (H-12区付近)



40. 古代古道断面 2 (H-11区付近)



41. 古代土師器基 出土状況



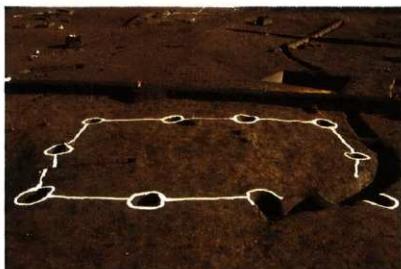
42. 鉄製品出土状況(右端はPit)



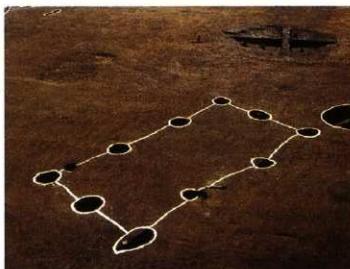
43. 鉄製品(刀子)



44. 鉄製品(帶金具)



45. SB15(北西より)



46. SB01(北西より)



47. SB06(中央)、SB10(手前)、SB11(奥)



48. Pit半截(SB01)

報告書抄録

書名	横市地区遺跡群 加治屋B遺跡(第2次) 星原遺跡					
副書名	横市地区県営ほ場整備事業に伴う遺跡の発掘調査概要報告書					
卷次						
シリーズ名	都城市文化財調査報告書					
シリーズ番号	第60集					
編著者名	東畠光博・栗山葉子・津曲千賀子					
編集機関	宮崎県都城市教育委員会					
所在地	宮崎県都城市姫城町6街区21号					
発行年月日	2003年10月31日					
所収遺跡名	所在地	北緯	東経	調査期間	面積	調査原因
加治屋B遺跡 (第2次)	宮崎県 都城市 南横市町 字加治屋	31° 44' 14"	131° 01' 27"	平成14年4月10日 平成15年1月24日	10,000m ²	農業基盤整備事業 (県営ほ場整備事業)
星原遺跡	宮崎県 都城市 南横市町 字尻枝	31° 44' 28"	131° 02' 00"	平成14年5月20日 平成15年3月31日	6,500m ²	(県営ほ場整備事業)
遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項
加治屋B遺跡 (第2次調査)	集落跡 集落跡 館跡	縄文時代 弥生時代 古代 中世	集石 落とし穴 土坑 竪穴住居跡 掘建柱建物跡 竪穴状遺構 道路跡 掘建柱建物跡 竪穴状遺構 土坑 溝状遺構		押型文土器 弥生土器 土師器 縄釉陶器 越州窯系青磁 石製鉗帶 龍泉窯系青磁 国産陶磁器	
星原遺跡	集落跡 墓跡 集落跡 集落跡	縄文時代 弥生時代 古墳時代 古代 江戸時代	集石 埋設土器 竪穴住居跡 道路跡 掘建柱建物跡 土坑 掘建柱建物跡 井戸跡		土器・石器 弥生土器 土師器 土師器 須恵器 縄釉陶器 鉄製品 陶磁器	

都城市文化財調査報告書 第60集

横市地区遺跡群

加治屋B遺跡(第2次調査)・星原遺跡

横市地区県営は場整備事業に伴う遺跡の発掘調査概要報告書

2003年10月

編集 宮崎県都城市教育委員会

発行 〒885-8555 宮崎県都城市姫城町6街区21号
TEL (0986)23-9547 FAX (0986)24-1989

印刷 佛文昌堂

宮崎県都城市東町18街区1号
TEL (0986)22-1121